

No.29-17	<b>漁況情報・浜の話題</b>	神奈川県水産技術センター
平成 29 年 12 月 13 日		企画資源部 046-882-2489 相模湾試験場 0465-23-8531

## ● 浜 の 話 題

- 11 月 14 日、27 日 横浜市漁協柴支所は、ホタテ養殖試験を開始しました。青森県から氷蔵発泡箱で運びこまれた種苗（殻長 11 cm）を、水槽内で約 2 時間かけて水温馴致の後、養殖カゴに収容し、漁港付近の養殖施設に設置しました。2 日間で 8 千個あまりを収容し、来年の春まで養殖をします。
- 11 月 16 日、藤沢市漁協はかながわブランド「湘南はまぐり」（チョウセンハマグリ）についてテレビ朝日「朝だ！生です 旅サラダ」の取材を受けました。当日の様子は、12 月 9 日（土曜日）8:00～9:30 の同番組で、湘南はまぐりの視聴者プレゼントと合わせて、全国ネットで放映されました。
- 11 月 17 日、大磯二宮漁協に秦野中学校の生徒 5 名が体験学習に訪れました。当日は、担当普及員が大磯で盛んな定置網漁とすらすら船曳網漁、定置網でたくさん獲れる魚や代表的な地魚のおいしい食べ方について説明しました。参加した中学生の中には釣りが好きな生徒もいて、興味深く話を聞いていました。加藤組合長の計らいで「めしや 大磯港」の地魚定食が昼食として提供され、参加した中学生は大磯の朝どれ地魚のおいしさを実感していました。
- 11 月 18 日、平塚市漁港で「ひらつかタマ三郎漁港まつり」が開催されました。当日は同漁協のプライドフィッシュ（全国漁業協同組合連合会が認定した、地元の漁師が自信をもって勧める魚）「平塚のシイラ」のつみれが入った漁師汁が振舞われ、朝どれ地魚、シイラやサメ製品の直売の他、釣体験会、お魚さばき方教室や「ザ・お魚クイズ」も開催され、盛況な一日となったそうです。
- 11 月 18 日、県水産課及び水産技術センターは、横須賀市大楠漁協所属の山茂丸さんの協力により体験漁業を実施しました。体験漁業とは、漁業への就業を希望する一般の方々を募集し、実際に漁業者の操業する船に乗り込み、漁業現場の見学を行うというものです。2 名の参加者は、今回の経験を通して、将来、漁業への就業を検討したいとのことでした。
- 大磯二宮漁協所属 定置網(有)二宮漁場は、11 月 19 日に開催された「第 45 回二宮町農林水産まつり」で、マアジ、カマス、イナダ等の朝どれ地魚を直売しました。当日は地魚の魚食普及活動の一環として、同漁場の定置網に入ったサバを使ったご当地フィッシュバーガー「おとちゃんバーガー」を二宮町商工会女性部が製品化・直売し、こちらも好評の内に完売したそうです。
- 11 月 23 日、東京都の明治神宮会館で開催された第 56 回農林水産祭式典に城ヶ島漁協から代表者 3 名が出席しました。農林水産祭式典とは、平成 28 年 8 月から平成 29 年 7 月の 1 年間の農林水産祭参加表彰行事（298 件）において農林水産大臣賞を受賞した 487 点の中から選考された 3 賞（天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞）受賞者を表彰する式典です。城ヶ島漁協は 3 賞の受賞にはなりませんでした。平成 29 年 3 月に行われた第 22 回全国青年・女性漁業者交流大会において農林水産大臣賞を受賞したため、式典に招待されました。

- 11月27日、江の島片瀬漁協所属のワカメ養殖漁業者は例年より10日ほど早くワカメ種苗の種さしを実施しました。ワカメ種苗は親指ほどの大きさに育っており、海上の養殖筏で来年2月以降の収穫に向けて育成します。
- 11月27から28日、小田原市産地協議会は小田原駅前地下街のハルネ小田原にて、地魚の直売を行いました。当日の朝に小田原市漁協の定置網が水揚げした魚を袋詰めにして搬送し、漁業者・小田原魚市場職員が店頭で販売しました。直売では朝獲れのアカカマス、ヤマトカマス、ウルメイワシ、イナダ、メアジなどが用意され、2日間とも用意した魚は完売し、大盛況でした。



人だかりのできる直売会場



袋詰めした朝獲れ地魚

- 11月28日、しらす協議会は鎌倉パークホテルで研修会を開催しました。当日は、県保健福祉局生活衛生部生活衛生課の担当者を講師に招き、生しらすを始めとしたしらす製品の衛生管理についての講演がありました。同協議会会員35名、関係者5名の参加があり、熱心に聞いていました。



しらす協議会研修会の様子

- 11月28日、鎌倉漁協坂ノ下地区の漁業者が養殖ワカメの種挿し作業を行いました。作業を行っていた漁業者によると、入手した種糸の状態はよいそうです。
- 11月29日から、相模湾試験場及び江の島片瀬漁協・茅ヶ崎市漁協・大磯二宮漁協のワカメ養殖漁業者で編成した「湘南ワカメ研究会」では、長崎県の種苗を導入する暖海性ワカメ育成試験に取り組んでいます。相模湾では、水温上昇に伴い養殖ワカメの生産量が伸び悩んでおり、海面水温がより高い長崎県の種苗を用いて、県内産と比べて生育が良いかどうかを比較する予定です。生育が良ければ、長崎県のワカメのメカブを使った品種改良にも取り組む予定なので、同研究会の漁業者は、長崎県産ワカメの生育状況に期待を寄せています。



長崎県 島原漁協（左）と島原半島南部漁協（右）から導入したワカメ種苗

○ 10月11日に新たにかながわブランドに登録された「走水あさり」「相模の鮎」「江の島カマス」3種の魅力や直売情報等が、11月29日の産経新聞神奈川版に掲載されました。



左から順に、「走水あさり」、「相模の鮎」、「江の島カマス」